

JOMF 派遣医師便り (2017. 11)

◆マニラ◆

感染拡大

マニラ日本人会診療所

菊地 宏久

日本では、病院に入院後は教育を受けた医療従事者が患者さんの対応を行います。当地では患者さんの介助・介護を家族が行うように指示されます。子供が入院するときは主に母親が付き添うように指示され、家族が対応できないときにはメイドさんが対応しているのが現状です。日本人が入院することの多い近代的な病院でも同様です。患者さんは家人に対応してもらおうという点では安心感があるかもしれませんが、「感染予防」という観点からは好ましいこととは言えません。

消化管感染症で入院した患者さんの例を提示します。

(プライバシー保護のため脚色しています) 患者さんは日本人男性駐在員で発熱、下痢、嘔吐を伴う感染性胃腸炎(食中毒)のために入院となりました。入院後も下痢、嘔吐は続いていました。入院後の下痢便や嘔吐物の対応は主に妻が行い、時々メイドさんも手伝いました。幼稚園児の子供二人は病院に来ると、父親のベッドの上で飛び跳ねて遊び、自宅から持ってきたお菓子や食事を父親に食べさせてもらったり病室で一緒に食事をしていました。その結果、数日後に妻も子供も父親と同様の症状を発症し、感染性胃腸炎のため家族全員が入院せざるを得なくなりました。

この例は特殊な例ではなく、当地ではごく当たり前に起こっている事例です。病院側に頼らず、患者側の皆さんが感染予防対策を行っていくことも大切です。家族は病室での飲食を避ける、患者さんの衣類や体に触れた後は必ず手洗いや消毒を励行する、病室のトイレや洗面所を使用した後にも手洗い・消毒を励行するなど、最低限の予防策を行うことも大切です。皆さん、どうぞお大事になさってください。